

「学習タイプ別」からみた女性の生き方について

○松浦三代子（東京女子体育大学） 浅田 隆夫（目白学園）

女性 学習タイプ ライフワーク型 レジャー型 自己実現型 資格取得型 生涯学習

I. 調査の目的と方法

1) 目的 かつて教育は「鉄は熱いうちに打て」の諺に従い、20代前半位までと考えられていた。しかし、社会の革新、高齢化、科学技術の発達、余暇、自由時間の増大、価値観の多様化などを背景として、生涯学習の重要性が叫ばれるようになって来た。女性はこの時代の変化の影響もあって、過去の伝統的な生き方、すなわち、家事、育児中心の生き方が構造的に崩れ、その上、性による固定観念など慣習化された考え方を変えて行くことが今日世界的な課題となっている。

本研究はこのような事実認識から女性のいろいろな生涯学習参与にみられる存在形態を明らかにし、それぞれの「学習タイプ」と女性の生き方を比較検討する。

2) 対称 M短期大学卒業生（1965～1992年）1250名を対象とした。年齢分布は20歳～51歳にわたっている。

3) 方法 郵送による質問紙調査、調査実施期日は1993年2月～3月、有効回収率34.8%。

II. 結果と考察

1. 学習のタイプについて

本調査では、各自の「学習タイプ」について4つのパターンで示し、自己評価をしてもらった。以下4つの「学習タイプ」を示す。第1に「自分の欲求に動かされて面白そうな課題に取り組む方である」というタイプを「ライフワーク型」とし、第2に「仲間に誘われたり、自分の趣味にあったレジャーを楽しむ方である」というタイプを「レジャー型」とし、第3に「自分の与えられた能力と役割を果たすように努力する方である」というタイプを「自己実現型」とし、最後に「社会に認められた資格や学歴を得ることによって自分を高める方である」というタイプを「資格志向型」とした。

(表1)

質問項目	学習タイプ	I II III IV V VI							
		65-70	71-75	76-80	81-85	86-90	91-92	NA	
1 自分の欲求に動かされて、面白そうな課題に取り組む方である	ライフワーク型	M	3.64	3.88	3.80	3.91	4.04	4.10	3.67
		SD	1.05	0.88	0.86	0.88	0.78	0.66	0.82
2 仲間に誘われたり、自分の趣味にあったレジャーを楽しむ方である	レジャー型	M	3.86	3.84	3.97	3.99	4.15	4.10	4.17
		SD	1.01	0.97	0.82	0.79	0.79	0.61	1.17
3 自分の与えられた能力と役割を果たすように努力する方である	自己実現型	M	3.98	3.77	3.69	3.86	4.00	3.90	3.67
		SD	0.80	0.95	1.02	0.86	0.83	0.71	1.03
4 社会的に認められた資格や学歴を得ることによって自分を高める方である	資格取得型	M	3.12	3.23	3.10	3.36	3.39	3.23	2.67
		SD	1.07	1.00	0.87	0.95	0.95	0.82	1.03

(表1) が示すように、年代別では有意差はみられないが、特徴的なことは、I期では

「自己実現型」であると回答した人が目立つ。Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期では「ライフワーク型」「レジャー型」の両方であると評価している。Ⅴ期・Ⅵ期では主に「レジャー型」と「ライフワーク型」「自己実現型」いずれにもあてはまると評価している。

2. 学習の現状

1) この1年間における職場での学習について「学習タイプ」との関係で概ね次のような傾向がみられた。「レジャー型」を除いた他に①「職場研修」(P.<.001)「資格取得型」では「職場での文化部関係の会員として勉強している」(P.<.01)、「自己実現型」では「他の企業での研修に参加している」(P.<.05)にみられた。

2) 学習の動機について 「ライフワーク型」に「余暇の善用」「地域活動」「知識を得る」「自由時間の増加」(各P.<.05)、「レジャー型」には「技術の習得」「将来のため」「生きがい」(各P.<.05)、「趣味のため」(P.<.01)、「自己実現型」には「資格取得」(P.<.001)、「資格取得型」には「趣味のため」「資格取得のため」(各P.<.001)、「自由時間の増加」「知識を得る」(各P.<.05)にみられた。学習参加の動機は、働くための技術や生活技術を習得したいと思っている人、地域での活動を深めようと考えている人、何となく人に誘われて始めてみたという人も含めて、いずれも自分から何かを求めて参加している。

3) 学習情報の入手方法 学習のための情報は多種多様である。なかでも「レジャー型」・「資格取得型」(各P.<.05)に差がみられた。その入手方法の特徴はいずれも知人、雑誌、新聞、本、テレビの順位となっている。

4) 地域活動について 自分が暮らしている地域でどのような活動に参加しているかについて①参加している場所を中心に、また②参加している内容を中心にたずねた。

① 参加する割合の高かった場所は「ライフワーク型」では「スポーツ施設」「芸術的催物」(P.<.001)、「図書館」「趣味・同好会」(各々P.<.05)に差がみられた。「レジャー型」では「スポーツ施設」(P.<.001)、「自己実現型」では「スポーツ施設」「学習していない」の(各々P.<.01)、「稽古」(P.<.05)にみられた。「資格取得型」には、他の「学習タイプ」にみられない「カルチャースクール」(P.<.01)、「各種学校」「芸術的催物」(P.<.01)、「大学の講義を聴講」・「塾や稽古」(P.<.05)と多項目に差がみられた。

② 学習活動の内容について 全体的に参加する割合が高かった項目は「健康や体力と関係した活動」(25.2%)、「仕事の技術や資格に関係した内容の活動」(19.5%)、「家事や家庭生活と関連した活動」(15.9%)、「子どもの保育や教育と関連した活動」(特にPTA等)(10.0%)となっている。その中で「学習タイプ」との関係で有意差がみられた項目は「ライフワーク型」では、「健康・体力と関係した活動」・「仕事の技術や資格に関係した内容の活動」・「仕事の技術や資格に関係した内容の活動」(各々P.<.001)、「レジャー型」では「健康や体力と関係した活動」(P.<.001)、「資格取得型」では、「技術や資格」(P.<.001)、「学習していない」(P.<.01)にみられた。

5) 「今まで学習したかったこと」と学習タイプとの関係について ここでは16項目を示したずねた。全体を通して「趣味に関すること」(44.7%)を選択した人が一番多く、次いで「仕事に関すること」(22.8%)などの項目が続いている。その中で「学習タイプ」との関係で有意な差がみられた項目は「ライフワーク型」では「仕事に関すること」(P.<.001)、「資格取得に関すること」(P.<.05)、「自己実現型」では「仕事に関すること」(P.<.05)、「資格取得型」では「健康に関すること」(P.<.05)、「資格取得に関すること」(P.<.01)

にみられた。

6) 「学習を行う上での障害」と学習タイプとの関係について 全体的に学習できなかった理由としてあげられた項目は、第1位「費用がかかりすぎる」(25%)、「仕事が忙しい」(23%)、次いで「育児に追われている」(21%)、「開設時間があわない」(20%)という理由である。これらの中で「学習タイプ」との関係で有意差がみられた項目は、「ライフワーク型」では「きっかけがない」(P.<.01)、「家事が忙しい」・「面倒である」・「結婚のため」各々に(P.<.05)「レジャー型」に「きっかけがない」・「職場の協力・理解が得にくい」各々に(P.<.01)、「学習意欲がわからない」(P.<.05)、「自己実現型」では「育児のため」(P.<.05)、「資格取得型」では「学習意欲がわからない」(P.<.05)などの項目にみられた。

7) 学習を続ける上での障害について 次により積極的な質問として「生涯学習を続けていく上で障害になることはどのようなことであるか」を13の項目を設けてたずねた。全体的には「時間が不足している」(49.7%)ことを理由としており、今日の忙しい暮らしぶりが浮き彫りにされている。次に「学習することが自分にとって学習の学習になっていて、実践に結びつかない」(33.3%)といった自己省察された回答や「主婦と働く女性との間に意識のずれがある」(21.5%)という点が障害になるなどの回答がみられた。

それらの中で「学習タイプ」との関係で有意差のみられたのは「ライフワーク型」では「時間不足」・「動機の欠如」の各々(P.<.05)に、「レジャー型」では「学習に参加する女性は特別な人という先入観」・「男性の理解が得られない」の各々(P.<.05)、「資格取得型」に「時間不足」(P.<.05)がみられた。

8) 社会教育事業への期待 全体的にみて、希望の多い内容は①「子どもの保育、教育に関する活動」(35.2%)、②「教養・文化的な講座」(28.6%)、「趣味・レクリエーションに関する講座」(22.7%)、「福祉関係のボランティア活動」(21.5%)、「仕事に役に立つ技能を身につける講座」「資格を取るための講座」「外国語に関する講座」(各20%)となっている。概ね、まず先に「生活に密着した内容」への希望が強く、次に「教養・趣味」が続き、さらに「ボランティアと専門的職業」に対する内容の順になっている。

それらの中で「学習タイプ」との関係で有意差がみられたのは「ライフワーク型」で「福祉関係のボランティア活動」(P.<.05)、「資格志向型」で「再就職のための講座・趣味・レクリエーションに関する講座」各々(P.<.001)、「資格取得のための講座」(P.<.05)にみられた。

9) 資格や免許について 現在までに取得した資格は全体的にみて、「趣味・教養に関するもの」(42.4%)、「仕事上必要なもの」(34.2%)、「日常生活に必要なもの」(30.4%)となっており、3つの分野のいずれにわたっても、概ね3割以上の人々が資格や免許取得を心がけていたことが分かる。特に年代別にみて有意な差がみられたのは「日常生活に必要な資格や免許の取得」(P.<.05)についてであり、Ⅲ期からⅣ期までの若い世代に取得者が多い。その中で「学習タイプ」からの関係で有意差がみられたのは「仕事上必要なもの(栄養士・秘書)」については、「ライフワーク型」・「資格取得型」の各々に(P.<.001)、「自己実現型」(P.<.05)、「趣味・教養に関するもの(スキー1級・華道など)」については「資格志向型」(P.<.001)、「ライフワーク型」・「レジャー型」の各々に(P.<.05)みられた。「日常生活上必要なもの(自動車免許など)」については「レジャー型」(P.<.05)にみられた。

10) 「今後」取得を希望する資格や免許について 全体としては「仕事に必要なもの」

(P.<.01)に関しては、I期の卒業生はわずか1割程の取得希望率であるが、II期およびIV期・V期・VI期の卒業生は3割以上の人が「今後の仕事に必要なと思われる免許」を取得したいと考えている。「趣味・教養に関すること」(P.<.01)についてもI期の卒業生の取得希望が15%であるのに対して、V期の卒業生では43%がVI期のそれは33%がこれからの免許取得を希望している。それらの中で「学習タイプ」との関係で有意差が認められたものは「ライフワーク型」、「資格取得型」の各々に「仕事上必要なもの(栄養士・秘書)」(P.<.01)がみられた。また、「レジャー型」では「趣味・教養に関するもの」(P.<.05)にみられた。

3. まとめ

今、多くの女性が年代を問わず様々な動機から実に多種多様な内容形態で学習していることが分かった。4つの学習タイプをまとめると以下ようになる。

「ライフワーク型」 比較的性別役割を受け入れ主婦となった(今後なる人たち)、いわば良妻賢母と呼ばれるタイプであろう。その多くは家庭を優先させて考えている。主婦としての役割を充分果たした上で自由時間を趣味やスポーツまたは社会的活動に参加している。また、若い世代では職場の運動部関係に所属し、研修に参加している。地域では仕事上必要とする資格(秘書・栄養士)を取るための学習に参加し、将来の課題に向けて自己研鑽をおしまないという生き方といえよう。

「レジャー型」 この「学習タイプ」はV期・VI期の卒業生に多く見られ若い世代の生き方を象徴している。職場研修、地域活動への関心は薄い傾向にみられる。また、一応に学習阻害として挙げられたことが、「学習に参加する女性は特別な人という先入観」が気になる。多くは「男性の理解が得られない」を理由としていることである。個人個人が「趣味」を持ち、「自由時間」を上手に使うことで「将来」の課題に向けて、「生きがい」につながるように人との「コミュニケーション」をも大切に生きているタイプである。

「自己実現型」 この「学習タイプ」の人達は、地域でスポーツ施設や塾や稽古に通っているが、生活や社会を変えて行く行動力につながっていないように思える。現実と遊離した学習に偏り、単に知識として知っているという意識が強くなり自己満足のみ大きくなっていく場合もあるかのように思える。この学習タイプの若い層は、職場では他の企業の研修に参加したり、その他の研修もみられることから、資格取得等で将来に備えているタイプといえよう。

「資格取得型」 この「学習タイプ」は再就職やOLのセカンド・ジョブを志向している傾向が見られる。現代の厳しい雇用環境が反映しているものとも考えられる。大学の聴講生、退社後の専門学校への通学、他の3つの学習タイプと比較して、専門的学習態度が考察された。地域の社会教育への期待をみても、日常生活上に必要な趣味・レクリエーション講座を挙げている。自由時間を有効に使い、心豊かに生きているタイプの人たちと思われる。また、若い世代ほどこの傾向は顕著である。

わが国の生涯学習環境は受け入れ安い面ばかりではない。実践を阻害する要因として学習者本人における問題(意識、基礎学力、経済、時間、健康等)と学習者をとりまく環境(家族・職場・地域・行政等)、加えて生涯教育にかかわる行政機関等、施設整備とソフトウェアの開発を含めた総合的な対策が今後の生涯教育の推進にとって重要な課題といえよう。